

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL : 024-521-7784 FAX : 024-521-5677

MAIL : shougaiyakushuu@pref.fukushima.lg.jp

No.16 R6.11.14



ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復興・再生や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをささえる、いかす、ひろげる、つなげる」ため、発行しています。

皆様方からも、多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

文教福祉複合施設 「モトガッコ」

石川町にある「モトガッコ」は、令和元年4月、町民の想い出が詰まった旧石川小学校を改築し、世代を超えて集う「結び舎」として誕生した施設で、公民館・図書館・屋内遊び場・カフェなどを備えている。町内外の各種団体により、様々な学びが提供され、交流拠点として町内外の利用者から広く親しまれている。生涯学習課担当の角田（かくた）氏に稼働率向上のヒントを伺った。

施設のロゴマーク



説明中の角田氏

コンセプトは、集い・遊び・学ぶ

町民の方々のニーズから生まれた施設には、日々子どもからお年寄りの方まで幅広い年齢層の方が訪れる。施設には児童クラブも併設していることから、「毎日子ども元気な声が聞こえるのはいいよね」と高齢の利用者の方々は笑みを浮かべる。赤ちゃん広場を利用する母親からは、「母親同士の繋がりができた。保健師さんに気兼ねなく相談できるのもいい」といった声があふれている。

施設の最大の特徴は、2階スペースに様々な目的や用途に応じて利用できる、様式やサイズの異なる8つの活動ルームがあること。貸部屋数が旧公民館の約3倍となり、施設の特徴を活かした新たな講座やサークルなどが開設され、講座等を開催する団体数が増加し、稼働率も良好だ。



また、子どもから高齢者まで、幅広いジャンルの学びの提供により施設利用者も伸びている。

→キッチンスタジオ、オープンスペース

「できません」ではなく「できる方法を考えてみましょう」

施設で提供している学びは、町内外の利用団体が主催する講座やイベントなども多い。時に斬新な提案もあるが、そういった場合でも「前例がない」ではなく、「どうやったらできるか」を企画者と一緒に考えるスタンスで臨んでいる。今月、初の試みとして、石川管内の障がいをもつ子どもたちなどに施設を1日開放し、



子どもたちに人気の室内遊び場

障がいという壁を取り払って、窓ガラスに絵を描いたり、草木染め体験をしたり、思う存分楽しんでもらおうというイベントを開催する。また、活動場所を移動して行っている「庭木の手入れ講座」は、受講者が多く人気の講座の一つ。旧公民館周辺の環境美化活動を兼ね、植木職人から直接ツツジやさつきの剪定を学ぶことができ、まさに一石二鳥。町内の団体同士はもとより、町内外の団体とのコラボによる企画もどんどん持ち込んでほしいと角田さんは語る。担当をはじめ、町の生涯学習課の皆さんが利用団体の要望に応えながら、自由でオープンな企画を行っていることが、町内外から人を惹きつけている。

担当者の思い



施設や事業の説明くださった角田氏。特に自由な発想・提案持ち込み大歓迎についてのお話は力が入っていた。今ある資源をフル活用し、何か楽しいことを企画して、ここに集う人を増やしていく。こうして町民の記憶に美しい想い出が綴られてきた学び舎(モトガッコ)には新しい記憶が刻まれ、交流の好循環が生まれていく。



来場者の夢が書かれたステッカー

たむら市民大学「たまり」

田村市では田村市教育委員会生涯学習課が事務局となり、市民相互の学びの場として、たむら市民大学「たまり」を本年4月に開講した。

「たまり」は前期・後期で講座の内容を変えており、前期は文化や歴史に関わるものから心理学、金融教育に至るまで多種多様な13の講座が開講されている。学生数は186人であり、特別講座の参加者を含めると200人を超える。

今回は生涯学習課からは担当者である鈴木氏と本田氏、チェアヨガ講座で教員を務める鎌田真理氏の3名から「たまり」に込めた思いや取り組み、目標について話を伺った。



左から鈴木氏、鎌田氏、本田氏

サステナブルな学びの場を提供していきたい!

たむら市民大学「たまり」は、多岐にわたる分野において技能や知識を持つ市民が教員となって、同じく田村市民である生徒に対して教室を開く事業である。

「たまり」の特徴は、授業料2500円を徴収することにある。これ

は、持続可能な仕組みづくりを意識して取り入れられた方法で、愛知県の「平成喫鳴館」の事例を参考に導入した。

担当者の鈴木氏

「受講料によって運営経費を捻出できるようにし、田村市ならではの学びの場を途切れさせないようにしたい。」と思いを語った。

また、かつて学生だった市民が教える側に回るなど、人材確保も含めて持続可能な仕組みづくりを目指していくと話してくれた。

リカレント教育の意識

たむら市民大学「たまり」は、田村・学びの場・リカレント教育の頭文字をとって名付けられた。

事業担当の本田氏は、「この事業におけるリカレント教育は、リタイヤ後の学習だけでなく、学校教育後や現役で働いている世代の学習も含まれている。人生100年時代の中で自分の人生を充実させていく手立てになれば」と語ってくれた。

また、教員経験や講座経験を問わず、誰でも教員として講座を開設することが出来る。教える側も教わる側も相互にスキルアップを目指しながら新たな学びを育み、学んだ成果



をいかし、提供する学びの質を高めることが出来る魅力を秘めている。

学生としての学習だけでなく、教員としての学びがあることよってスキルフルな市民が育成されていき、まちの活力として田村市におけるまちづくりにつなげていける可能性が期待されている。

住民の思いに応えた場づくり

この事業は事務局の思いだけで成り立っているものではない。開講に向けた市民アンケートや、お話し開講を通して教員・学生からの指摘、教員として関わりたいという住民の思いから「たまり」は生まれた。

学生からは「学生同士の交流が欲しい。」との要望があり、心理学の講座ではグループワークが多めに用意されることになった。

また、講座の一つである「お金の学校」は、担当教員である遠藤菜一氏からの「ぜひ田村市で教えたい!」という思いから出発した。

住民の自主性を尊重できるように市民相互の学びの場が提供され、住民の伝えたい、学びたい、交流したいという思いをのせ、たむら市民大学「たまり」は成長している。



グループ分けされた心理学講座の様子

広がる学びの輪

講座で教えた内容が広がっていることが嬉しいと話するのは、チェアヨガ講座担当教員の鎌田氏。「講座の中で教えた痛み軽減の体操を、自分の母親とか会社の人に教えたって聞くと、本当にうれしいです。」と笑顔で語り、教員と学生が市民同士の横並びの関係だからこそ、フランクで和やかな雰囲気の中で学び合えることが魅力だと付け加えた。

ヨガ講座の様子



講座担当教員の鎌田氏

今後の展望

今後は、語学・金融・プログラミングなどの講座の需要に対しても応えていきたいと鈴木氏が話してくれた。

また、掲示板を利用した交流や欠席連絡などを一括で行えるシステムを構築していきたいという市民目線の改善の話もいただいた。